

平成18年10月10日

5号機原子炉格納容器内における水漏れに関する調査結果について

当所5号機は定期検査中ですが、平成18年8月17日、中央操作室において、原子炉格納容器内に設置されているドレンサンプの水位上昇を示す警報が発生したため、運転員が現場へ急行したところ、原子炉格納容器内のペデスタル（原子炉圧力容器の台座）の外側に水漏れがあることを確認いたしました。ただちにドレンサンプに導かれていた仮設ホースのドレン弁を閉じたことにより、水漏れは停止いたしました。

漏えいした水の量は約10リットル、放射エネルギーは約 4×10^5 ベクレルで、拭き取りによる清掃を実施いたしました。

これによる外部への放射能の影響はありません。

(平成18年8月18日お知らせ済み)

調査の結果、以下のことがわかりました。

- ・当時、原子炉内で起動領域中性子束モニタ*の検出器取替作業を実施しており、その際に発生する排水を仮設ホースにてペデスタル内のドレンサンプへ導いていた。
- ・仮設ホースに取り付けられた当該弁の操作は、当該検出器の装荷作業時に、原子炉建屋5階の作業指揮者から連絡を受けた同1階の作業指揮者（以下、当該指揮者）の指示に基づき、ペデスタル内の作業員が実施していたが、当該指揮者が誤って通常より早いタイミングで当該弁の開操作を指示した。
- ・排水先であるドレンサンプへの仮設ホースの固定が不十分であった。

当該指揮者が当該弁を開操作する指示のタイミングを誤った原因は、当該検出器の取替作業のチェックシートにおいて、検出器の装荷および引き抜き作業時に当該弁を開状態にする工程があったことから、当該指揮者は、原子炉建屋5階の作業指揮者から検出器の装荷準備が完了したとの連絡を受けた際、引き抜き作業の準備が完了したものと勘違いし、通常より早いタイミングで当該弁の開操作を指示したことによるものでした。

このため、通常より多い排水が当該ドレンサンプへ流入し、排水の勢いで仮設ホースが浮き出たことにより、排水の一部が飛散し、ペデスタル外へ漏えいしたものと推定いたしました。

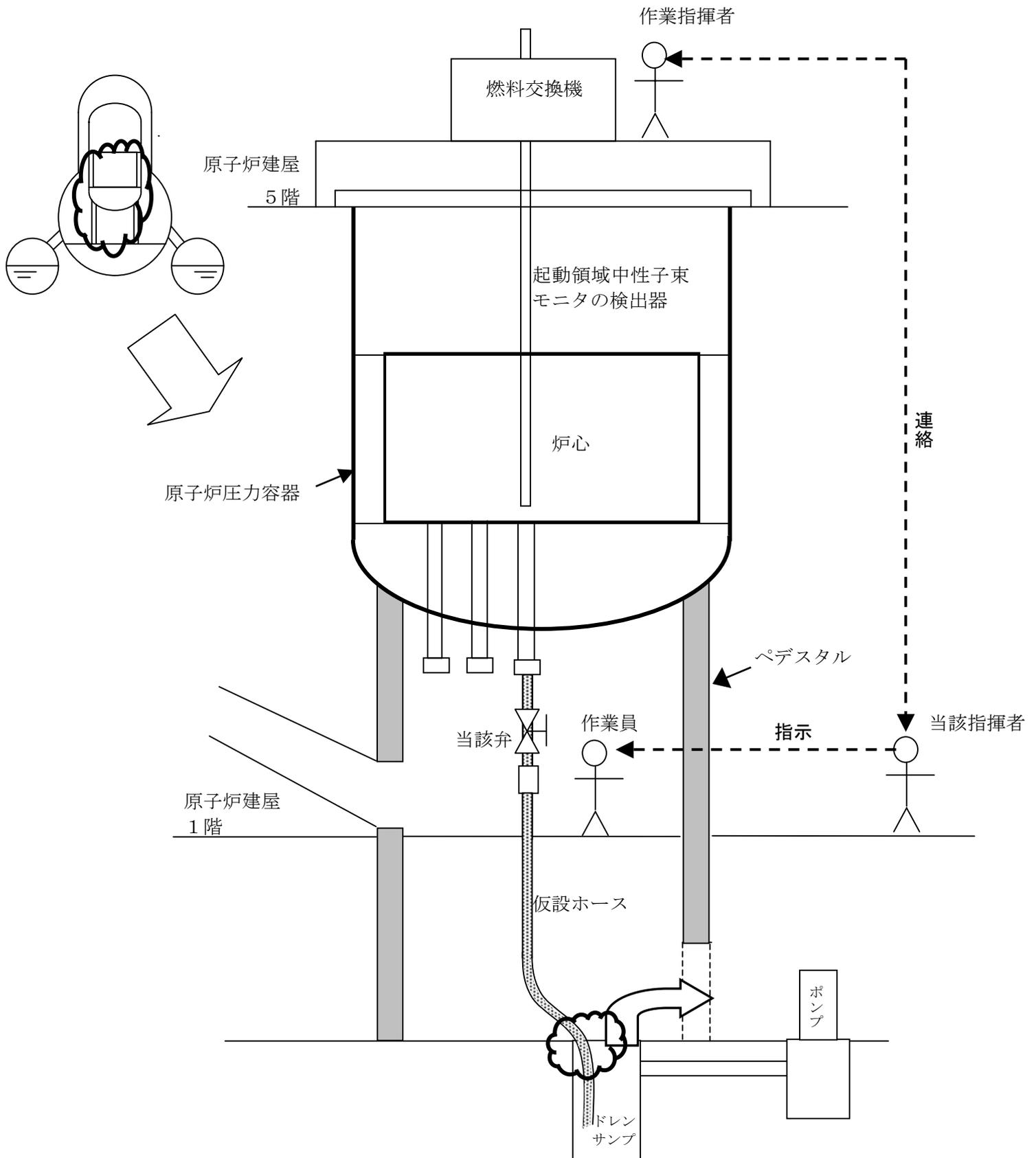
対策として、作業のチェックシートを各ステップごとに確認できるよう改訂するとともに、排水の飛散防止策として仮設ホースをドレンサンプに確実に固定することといたしました。

以 上

* 起動領域中性子束モニタ

原子炉の停止中および低出力運転時に中性子の量を測定する装置。

検出器は8チャンネルあり、1系列4チャンネルずつで2系列に分かれている。



5号機原子炉格納容器内における水漏れの概要図